こうとう民報
2012年　8月号 №94
江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発　行
こうとう民報編集委員会
責任者　猪又　武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

「2012年原水爆禁止世界大会」核廃絶・原発再稼働許さず

4日から広島市で開かれた2012年原水爆禁止世界大会。江東区からは、19名の代表団(大木栄一団長･東京土建江東支部副委員長)が参加、海外代表含め6800人が参加しました。(原爆ドームをバックに、江東区から参加の代表団)

この日大会宣言は、広島と長崎に爆弾投下から67年を迎え、今なお約2万発の核兵器が人類の生存を脅かし続けている。

「核兵器のない世界・原発ゼロ」に向けた運動が空前の規模で発展している。どのような形であれ「核」による被害者を出してはならないという点で連帯し、運動が相乗的に発展をするようと訴えました。

また大会は、3・11福島原発事故が、核による被害の恐ろしさを改めて浮彫りにしたとして、すべての核被害者への連帯と支援を呼びかけました。

参加した福島県馬場有浪江町長は、「町民2万1千人が流浪生活を強いられています。生業は崩壊し、地域や家族は離散。憲法で保障された幸福追求権、生存権、財産権は私たちにはないのでしょうか。いまも放射能と戦い続けています。自然エネルギー政策の転換・普及を即座に実践すべきだ」と訴えました。

江東区代表団の浅見さん（28歳）は、被爆者訪問分科会に参加し「原爆投下の際にやっと見つけ出した弟たちも、2人で向きあっていたために、二人は体の半分ずつ大やけどしていましたが何とか無だったという話を聞き、もう二度とこんなことがおきたらだめだ!!と心に強く思った」と話していました。

さよなら原発・江東「経営者が語る原発のない経済」

7月28日 さよなら原発・江東」は、ティアラ江東・大会議室で鈴木梯介さん(エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議・世話人代表)を迎え講演会を行い130人が参加しました。

『エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議』を立ちあげた小田原・鈴廣の鈴木副社長。

福島原発事故以後、被災地の仲間を通して救援物資を送り、足を運ぶなかで福島の現実を知り「経営者のなかに原発がなくても大丈夫、経済はやっていけるということを発信していくことが大事」と、会を立ちあげた経緯を振り返ります。

鈴木さんは「反対だけでは、推進派の対立軸を生むだけ、自分たちで新しい現実をつくっていくことが大切」と話し「小さくても自分の会社や地域で設置できる再生可能エネルギーを作っていく、自分たちの未来を考えていくことが大事」と訴えました。

最後に3・11前は原発の真実を多くの人が知らなかった。自分もそのひとりで、海も山も地球上のすべてものが、自分と繋がっている。だから無関心では絶対にいけないと語り話を結びました。

議会報告

日本共産党江東区議団は、東日本大震災の災害復興に区としての支援を求めるとともに、江東区においても「想定外」の被害を出さないため、防災対策の抜本的見直しを求めています。

木造住宅やマンションの耐震化補助の拡大を

江東区の地域特性である木造住宅密集地域への対策では、区が行っている住宅耐震化への助成額引き上げと併せて、耐震ベッド（寝ている人の命を守る）や逃げ道確保のためなどの部分改修にも補助金支給を求め、第2回定例会では老朽空き家対策や耐震ベッドについて一部検討する方向が示されました。

〈第2回定例会〉

「防災対策の抜本的強化を求める」

また、区民の8割以上がマンションに居住する中、先の大震災ではエレベーターの停止、配管破損による水漏れ、家具の転倒などの被害が多発しました。区議団は、被害状況の実態調査を行って対策に生かすこと。また、区内200棟に及ぶ「旧耐震」（耐震補強が必要と想定される）のマンションへの耐震補強工事への助成額の大幅引き上げ、家具転倒防止金具の取付けカ所の拡大、ガラス飛散防止フィルムへの補助拡大など求めています。

堤防護岸、水門を強化し津波対策を

津波対策の強化も必要です。地盤が低く海面下の地域が多い江東区では、これまでの「東京湾には津波は来ない」とされてきた想定を見直し、堤防や護岸、水門や陸閘（りくこう）などの耐震性の検証、強化を求めるとともに、いざというときの逃げ場所となる「津波避難ビル」の確保にさらなる取り組みを求めています。

市街地での自衛隊訓練やめよ

「防災」に名を借りた危険な動きを見逃せません。自衛隊は防災対応訓練として、7月16日から首都圏に迷彩服の自衛隊員が徒歩や車で展開、集結する大規模な演習を行いました。江東区の区役所や木場公園、亀戸東公園なども訓練舞台、休憩地として組み込まれるなど「防災に名を借りた有事の訓練ではないか」と批判の声があがっています。

区議団は平和委員会や民主団体の皆さんと一緒に江東区長に対して申し入れを行い、区民に不安を与える訓練に区として協力しないこと、市街地での訓練は行わないよう自衛隊に申し入れることを求めました。

潮騒

終戦から67周年の夏です。立秋を過ぎても猛暑のなか、仮設住宅や避難所で被災者は辛い日々を耐え忍んでいることでしょう▼江東区民にとっては、今年は特別な夏となりました。3・11大震災で延期された深川八幡の例大祭がオリンピックの祭典と重なりました。どちらも平和であればこそのお祭りです▼スポーツで人類の目覚ましい進歩を記録する競技に熱狂しつつも、ベルリン・東京・ロンドンで予定されていた20世紀の三つのオリンピックが、二次にわたる大戦で中止になった歴史を忘れてはならないと思います▼オリンピック最終日、日本では日付の変わる零時50分、日テレが「除染の島へ」を放映。1946年から12年間、アメリカの核実験場だったロンゲラップ環礁の悲劇です。避難した島民が3年後に帰島するも、甲状腺がんや白血病などにおそわれ、28年後に再び脱出し、いまだに帰れないといいます▼日本では、8月10日に原発再稼働でふくれあがった9万人の「金官」行動がとりまく国会で、民自公三党の談合による消費税増税と社会保障解体法案が成立しました。3・11が国のあり方を考え直す契機となったように、暮らしと経済を破壊する民自公の8・11の暴挙を、国民は決して忘れないでしょう。

概説

江東の歴史

（13）

「木場の繁栄」

木場の堀割

明暦の大火(1657年)後、神田鎌倉河岸、本材木町、茅場町、八丁堀あたりの材木置場は深川の元木場に移されまた。1673(延宝)年頃の元木場の材木商は21人だったといいますが、多くは日本橋あたりに店をもっていました。元禄に材木商で財をなした紀伊国屋文左衛門や奈良屋茂左衛門は、ともに深川には材木置場と別邸をもち、文左衛門は元八丁堀、茂左衛門は箱崎町に店を構えていました。

木場に材木商が移り住むようになったのは、隅田川に新大橋や永代橋がかけられて往来が便利になったからでした。1699(元禄11)年には元木場が埋め立てられ、材木置場は今の木場周辺の築地町に移転。15人の材木問屋が堀を縦横に掘って15の区画をつくりました。彼らは深川三好町(平野3丁目)に問屋会所をもち、入札で材木を売買、後には富岡八幡境内の、二軒茶屋で入札をするようになりました。

木場は文化文政期(1804～1829年)に大いに繁栄し、江戸の材木問屋の中心地になっていました。そのうち一番古い店は栖原屋で、北海道にまで手をのばしていました。町名にその名を残す冬木家は、1705(宝永2)年に土地を買い、1815(文化2)年に店を移して広大な屋敷を構えました。有名な尾形光琳、乾山兄弟は冬木家の世話になりました。(深川七福神の冬木弁天は冬木家の邸内社)

その頃の木場については「深川木場材木問屋、宅地の周りに杉、柾木、或いは槇らを生垣に植廻らし、其内に池を掘り、又この地縦横に小川ありて池より之を通る」と問屋の富裕さがかかれています。木場の財力は、そこで生まれた山東京伝、四世と七世市川団十郎、長谷川如是閑、蜷川虎三など多くのすぐれた人材をおくりだしました。

バスツアー！そなエリア東京・第五福竜丸展示館へ

戦争と平和を語り継ぐつどい

7月29日、東深川地域日本共産党後援会は「戦争と平和を語り継ぐつどい」を行い、有明の東京臨海防災広域公園「そなエリア東京」や夢の島の第五福竜丸展示館などをバスで訪ねました。

東深川地域後援会では、毎年、この時期に「戦争と平和を語り継ぐつどい」を開催しています。

そなエリアで説明を聞く参加者

つどいでは、昨年体験した東日本大震災を教訓にして、日頃からの防災・減災対策をすすめようと江東区有明にある東京臨海防災広域公園「そなエリア」へ。震災時の対応等を学び、災害発生時のシュミレーションを視聴し防災意識を高め合いました。

夢の島の第五福竜丸展示館では、学芸員から当時の様子から現在に至るまでのお話を聞き、水素爆弾や原子爆弾の脅威、放射能の恐ろしさを再認識。

参加者からは「被害者を出さないでほしいという被爆者の願いに反して、放射能被害が拡大している現実が悲しい」「第五福竜丸の被爆を風化させないように若い人に伝えていきたい」などの感想が寄せられました。

築地市場移転問題は今…

日本共産党都議会議員　あぜ上　三和子

私は、7月30日、豊洲市場予定地とされている豊洲東京ガス工場跡地の汚染土壌処理施設を視察しました。

この予定地は、東京ガスが処理したという後にもベンゼンは環境基準の4万3千倍、シアン化合物は930倍など汚染物質が大量に発見され、食品を扱う市場に最もふさわしくない場所です。それにも関らず、都議会で自公民の賛成によって市場移転のための土壌汚染対策が強行されました。しかも数百億円という莫大な税金を投入して、汚染対策と液状化対策を講じるとしていますが、あくまでも汚染をゼロにできるわけではありません。食の安全最優先で、築地市場の現地再整備を引き続き求めていきます。

説明を受ける都議団

原水爆禁止世界大会に参加して

高校時代に初参加した広島は今の自分の原点です。

ある被爆者の女性は16歳の時に被爆。5歳の弟は半身大火傷をおいました。その子が「お姉ちゃん。抱いて」と言った時「当時は貴重なもんぺを着ていて抱いてやれなかった。それが心残りです」と話してくれました。その子はすぐに亡くなったそうです。その話を聞いて自分も涙しました。

日々の忙しさに追われ、感性が麻痺しているのではと感じてしまう時があります。しかし被爆者や参加者との交流がそんな気持ちを吹き飛ばしてくれました。当たり前のことが当たり前にある、少しでもそんな世の中になるように頑張りたいと思います。

（山本真・32歳）

2012 富岡八幡宮 例大祭

☆今年は3年に一度の本祭り（昨年は震災の影響で延期されました）深川の町が「わっしょい！」「わっしょい！」の声で賑わいました☆

～行事日程～

○9月2日（日）13時～
「亀戸事件89周年追悼会」
赤門浄心寺（追悼実行委員会）

○9月9日（日）9時半～
「憲法9条を守る団地署名行動パート5」
都営東砂二丁目団地（大運動実行委員会）

○9月15日（土）16時～
「地域労組こうとう第4回定期大会」
森下文化センター